

ヒトが人間になるとき

その8 「遊び」と発達④ 小学校低学年

特集

「遊び」と発達④

小学校低学年

38

「ただいまー」「おかいり」——一人ひとりの元気な様子をたしかめながら学童クラブでの一日がはじまります。帰ってきてカバンを置くと、本を読む子、ボールで遊ぶ子、指導員にまつわりつく子と、子どもたちは思い思ひの遊びにとりかかります。遊びはクラブの生活の中心です。家ではひとり子の子もわがままな子も、遊びの中では協力し合い、連帯感をもつて変わっていくのです。おやつ後に校庭で遊ぶ「野球」の取り組みから子どもたちの成長していく姿を紹介いたします。(社会福祉法人陽光会では、区立板橋第十小学校学童クラブを区の委託を受けて運営しています)

新任指導員のとまどい

この4月から学童クラブで子どもたちと過ごすことになり、「3年生と仲良くなるにはどうしたらいいだろう?」女の子はおしゃべりなどながら関係を築いていくけれど、男の子とはどう関係を築いていくか?」と考えました。そして、とにかく一緒に楽しく遊んでみようと思い、子どもたちが校庭でやっていた野球の仲間入りをすることにしました。

当初は、「入れて!」と声をかけていました。大人を仲間に入れるのにもそんな調子なので、子どもたちは、「3年生が大威張り!」「何でお前なんか入れなきやいけないんだよ!」という調子でした。

また、3年生の中でも、ルールをわかつてない子や、「苦手だからやりたくない」という気持ちを持ちながらも、周りに合わせてやっている子もいました。そんな中でも、野球を習っている子が、ルールや面白

さを教えてくれて、みんなが少しずつ野球に夢中になっていました。

しかし、そのうちに、野球を習っているという理由で威張り、まるで王様のように周りに命令し、ルールやゲーム遊びを変えいく子が出てきました。なぜか、ほかの子たちはその子の言いなりになってしまいます。大人だって理不尽に感じるようになると受け入れ、言いなりになる子どもたちの姿に、私はこのままではいけないと、子どもたちとじっくりと関わり、見守つていきました。

一人ひとりと向き合うなかで

夏休みに入り、ゆったりとした時間の中で一人ひとりと話をみると、それぞれがしっかりと自分の思いを持っていることを再確認することができました。普段、みんなの後ろにいる子が、自分の思いや力を十分に發揮して、目を輝かせながら楽しんでいた姿を目になりました。私は「この子たちの力を借りてみよう!」と思い、遊びの

3年生にとっては、学童クラブ最後の一学年間。学童クラブの外にはわくわくするような世界が待っています。しかし、それは同時に大人の日の届かない場面が増えるということです。

「ガキ大将」をめざして



高原正治

身の回りから物が消えてゆく……

私は1933(昭和8)年生まれです。1940年に小学校に入学しました。紀元2000年(神話上の神武天皇即位2000年が歴史上の事実とされました)の祝賀ムードいっぱいのなかでの入学でした。

その入学前後のことです、子ども心にも不安が生じてきたのは……。それまで1銭銅貨(1銭は100分の1円。今の価値で20円くらいでしょうか。1銭銅貨は今のは5円玉ほどの大きさです)で買った黒糖大粒のアメ玉2個が、いつのまにか1個に減っていました。

太平洋戦争が始まっていると思いますが、1銭銅貨がいきなりアルミ貨に替わりました。今の1円よりひと回りより小さいもので、これは大変なショックでした。お金の価値が急落したことが子どもにもわかりました。そして、当時発行されていた硬貨はすべてアルミ貨に替わったのです。

米、醤油、味噌など、これまで米屋や酒屋で自由に買っていたものも配給制(頭割り配分)になりました。お店の人から頼まれていた配達のおつかいもなくなって、駄賃がもらえなくなつてがっかりしたことも覚えています。衣服も自由に買うことはできなくなりました。これも配給制で、衣料券で購入するようになったのです。といっても、衣料券自体が不足していました。小学3年生のとき、50人ほどのクラスのうちの4~5人に学生服の配給があり、くじ引きで当選したときのうれしかったこと。運動靴もボールもみな配給制でした。ボールは、テニスボールくらいの大きさで、少し遊ぶとすぐ破れてしまう粗末なものでした。

そのうちに、駄菓子屋からは品物が姿を消し、わずかに干し柿の種や肉桂の根(シナモン)が淋しげに並んでいる程度になりました。

そのころ日本は東南アジアにまで攻めて勝ち進み、占領下にはゴム林や広大な水田があり、大量に物資が送られてくると聞かされていたのに、商店は一挙に閉店し、身の回りからはどんどん物がなくなつてきました。すべて軍事優先の時代。子ども心に「兵隊さんのため」と思いながらも、解けない謎のようでした。

(板橋区在住/元板橋子どもを守る会会長)

建設資金

◎寄付のご協力ありがとうございます。(06年8月1日~12月3日/敬称略・順不同)

新村幸恵、武田元、竹田美代子、一條康孝、金親な子、埼玉章子、西村芳子、中村泰子、山下澄子、室橋壯六、西村治美、中原正木、吉田一、田中健治、美加、米山和夫、関口真理子、繩野照代、今藤久恵、大塚博美、今井玲子、山田紀子、名児忠良、あさえ、横田和美、渡辺一之、弘子、鴨坂優子、小泉翠、吉村敏雄、高階第2保育園職員一同、ムジカ音楽研究所、パールジュエリー美登里、陽光会財政部財政活動

【建設費収支報告】

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
寄付、財政活動	14,506,464円	設計、監理料	18,563,650円
施設整備補助金収入	95,225,800円	建設工事費	174,234,400円
福祉医療機構借入金	49,800,000円	仮園舎(改築・賃貸)	27,712,750円
自己資金	61,924,882円	測量・保証料・租税公課	2,598,830円
		備品購入	4,770,899円
合 計		合 計	
221,457,146円		227,880,529円	

*差額6,423,383円が、寄付金目標額の残額です。

◎上記収支報告にあるように、寄付金と財政活動(物品販売の収益など)の合計は、おかげさまで1450万円余に達しています。しかしそれでもまだ目標額に至っていません。目標まであと640万円余り。今後ともご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

◎寄付のお願い 1口5000円(何口でもけっこうです)

下記口座に振り込みお願いいたします。

郵便振替口座 口座番号 00140-0-260468

口座名義 陽光保育園建設委員会

*寄付金控除の対象になります。領収書が必要な方はお書き添えください。



お父さんというより兄弟みたい……?

陽光保育園にお世話になつてはや四年が過ぎました。年長・かもしか組の鈴木翔太の父です。

翔太が年少・あひる組のときの運動会で、年長の子どもたちが竹馬やなわとびをする姿を見て、わが子もあんなことができるようになるのかと、目を見張ったのを覚えています。

その子がかもしか組になつての今年の運動会。その成長した姿を見て、休日にもロクにかまつてあげられない父親と母親は涙が出るほどれしく、また頬もしく感じました。これも、陽光保育園の保育方針というのでしょうか、子どもたちの身体能力を引き出すまさに、この保育園のお世話になつてよかったです。

(5歳児クラス・翔太の父 鈴木英明)